



上田市公文書館 開館

令和元年(2019) 9月1日(日)

公文書館について

上田市では、歴史資料として重要な公文書を収集・整理・保存し、市民共通の財産として永く後世に伝え、広く市民にご利用いただくことを目的に「上田市公文書館」を開館しました。現在、公文書館には、主に明治以降の公文書類が1万3千点余収蔵され、合併してきた市町村の過去の行政の歩みが克明に記録されています。上田市の近現代は「公文書館に行けばわかる」そんな施設を目指してまいります。どうぞお気軽にお立ち寄りください。



2階閲覧室



2階書庫

上田市長 ごあいさつ



上田市長 土屋 陽一

令和の新たな時代を迎え、上田市に公文書館が開館いたします。平成22年に文書館設置を求める請願が上田・東御・小県地域史連絡協議会から提出され、議会にて採択されて以降、市では公文書館の設置に向けて、多くの方々のご支援をいただきながら、検討・整備を進めてまいりました。当館では、開館当初の収蔵物として、これまで各地域で保存されていた1万3,000点余りの旧役場文書を収集し、開館に向けて整理を行ってまいりました。この収蔵点数は、今後年月を経ることに更に増えていく予定です。また、インターネットを使った目録検索システムの導入や、電子目録に文書の概要を記載する等、利用者の皆様がお探しの文書を見つけやすいよう努めましたので、ぜひ多くの方々にご来館いただければと思います。「温故知新」という言葉がありますが、公文書を通じ上田市の歴史を未来につなげ、新しい時代にいっそう輝く上田市が創造されていくことを心より願います。

公文書館収蔵資料の展示

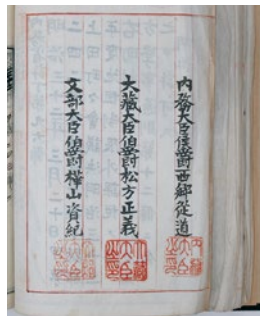
収蔵資料中、特色あるものを公文書館ロビーで展示します。展示内容は「明治26年塩野神社境内絵図(西塩田村)」「独逸(ドイツ)長距離砲弾道推定図面及び潜水艇之操縦図面(塩尻村)」「豊殿村の設置・施行及び神川村の編入文書」等です。

収蔵資料のご紹介



江戸時代の南方村年貢割付状

旧塩川村南方の年貢割付状(ねんぐわりつけじょう)。領主が村の石高に基づいて年貢(租税)を徴収しています。当館では丸子地域自治センターに保存されていた旧塩川村の年貢関係古文書約500点を収蔵しています。



上田町への課税許可

明治32年(1899)上田町が明治政府に申請した地租制限外課税に対する内務省からの許可通知です。明治22年(1889)の町村制施行により、特別の必要がある場合、内務大臣・大蔵大臣の許可を得て、町村は独自に課税することができました。署名欄に内務大臣の西郷従道、大蔵大臣の松方正義、文部大臣の樺山資紀の名が見えます。

開館記念行事

記念講演会

『公文書館の使命と役割』

令和元年(2019)9月24日(火)

午後1時30分開場・午後2時開始

会場:上田創造館文化ホール



講師

かとう たけお
加藤 丈夫氏

(国立公文書館長)

富士電機製造(現・富士電機)株式会社代表取締役副社長、会長等を歴任。学校法人開成学園理事長、経済同友会幹事、企業年金連合会理事長、公文書管理の在り方等に関する有識者会議委員ほか要職を歴任。平成25年(2013)民間出身初の独立行政法人国立公文書館長に就任、現在に至る。



講師

うめはら やすし
梅原 康嗣氏

(同館首席公文書専門官)

上田市出身。長野県内において小中学校教員として勤務。平成6年から『上田市誌』執筆委員を上田市誌の刊行まで務める。平成8年(1996)から長野県立歴史館勤務。平成14年から独立行政法人国立公文書館勤務、現在に至る。

上田市公文書館

〒386-0413 長野県上田市東内2564-1
TEL 0268-75-6682 / FAX 0268-75-6683

開館時間 午前9時～午後5時

休館日 月曜日・祝日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)

メール kobunshokan@city.ueda.nagano.jp

URL <https://www.city.ueda.nagano.jp/>

交通アクセス

- バス:千曲バス鹿教湯線 丸子郷土博物館前下車
- 自動車:上田駅から約15キロ(約30分)

